

# さくら通信

平成 25 年 5 月 12 日

No 32



発行者：NPO 法人 下関深坂さくら友の会  
住 所：下関市安岡町 1-8-3  
TEL:083-258-0143 FAX:083-258-5910  
Eメール：[misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp](mailto:misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp)  
HP：<http://yasuokac.sakura.ne.jp/sakura>



## 4月7日 深坂さくらえ

さくらえは今年で第6回となるが、初めての荒天だ。開会式は室内で行われ、下関市長から祝辞がのべられた。引き続き、今年植えるオーナー桜の市への贈呈式が行われた。

テラスではモチツキ

季節外れの寒さと雨の中、どれだけ盛上がれるかが験されたが、まずはモチツキで景気を付けてくれた。5ヶ入って200円は安い。美味しかったと評判。

室内では維新の会のプラスバンド、アンコールは東日本大震災復興支援ソング“花は咲く”

勝山会の少年少女による平家太鼓、室内に力強く響きわたる。子ども達の真剣で勇壮なパフォーマンスに、会場は静まり返って聞き入り、その後の盛大な拍手が聴衆の感動を物語っていた。

## 平成25年度さくら研修旅行 旅行記 平野正

さくら前線が10日以上も早く走り去った4月11日早朝、14名は新下関駅に集合した。京都付近までは新幹線で往復。3日間はバス移動で、琵琶湖一長良川周辺の名城、寺社巡りと、根尾の薄墨桜などの見学の旅。

ソメイヨシノは花吹雪だったが、カエデやミツバツツジ、草木の萌える緑は、旅を十分に満足させて呉れた。比叡山で雪に降られ、雄琴温泉近くに降りるとシダレや八重桜の群らがありで皆が声を上げた。水郷めぐりでは、岸から生えた満開状態のソメイヨシノの下をくぐり抜け、大満足！バスガイドいわく、「琵琶湖の風はとても冷たいのです。」彦根城は、



水郷巡り ↑ ↓彦根



根尾の薄墨さくら ↑



長正司の藤 ↑ ↓黄エビネ



まだ見足りなくて、もう一度行きたい宿題ができた。関ヶ原の道筋入り口で、宿場町醒ヶ井（サメガイ）宿に寄った。上流で湧き出る泉、バイカモが群生、小魚ハリヨが住む。その自然を守る住民達の努力等を見学。長良川の温泉郷で一泊。根尾谷までじっくりと山中の道を走り、良い時期に来ましたと

誉められた。散り際に“薄墨色”になるとの事。隣に二代目があるが、一人では抱けない幹の太さ。

今回の研修で、花の時期を長く楽しむ為に、シダレや八重を交互に植える等の工夫が欲しいとの思いを強くした。

## 俵山シャクナゲ園

4月23日毎年訪れている俵山石楠花園から、「今が見頃ですよ、早く見にお出で下さい」と声がかかった。参加者13名。

行きがけに、長正司公園の藤を見物。咲き始めたところで、長く穂が垂れて咲いているのと、花穂が短いものと2種類の藤が同時に咲いているのが見られた。

俵山に出かける前、深坂の森で黄エビネの様子を見に行った。ひっそりと、静かに、檜の木林の中に咲いていた。この黄エビネは一昨年、俵山シャクナゲ園の園主の金川さんから多数分けて頂いたものである。何株か盗まれて居るが、大事に育てたいものである。



比叡山延暦寺 ↑ ↓石山寺



次回予定  
日時：7月14日 9時 第2回定例会  
場所：深坂自然の森 森の家